

# 上毛

# Happy New Year

1

こうげ町広報 January 2016 VOL.123

CONTENTS

- 町の掲示板 ..... 2
- 町の話 ..... 11
- know「農」 ..... 14
- カルチャー ..... 15
- 町の情報ひろば ..... 16
- 素敵人 ..... 18

http://www.town.koge.lg.jp



町の花(春)桜

町の花(秋)コスモス

町の木 梅

編集発行 上毛町役場企画情報課

印刷 築上印刷有限会社

〒871-0092

福岡県築上郡上毛町大字垂水1-3-21-1

TEL 0979-723111

FAX 0979-723664

## 人の動き

11月30日現在

- 男性 3,725 (+1)  
うち外国人 18 (±0)
- 女性 4,139 (+6)  
うち外国人 8 (±0)
- 人口 7,864 (+7)  
うち外国人 26 (±0)
- 65歳以上 2,596 (-2)  
33.0%
- 75歳以上 1,415 (-2)  
18.0%
- 世帯数 3,156 (-3)  
うち外国人世帯 23  
(うち混合世帯3)

## 参考

- 平成17年10月11日  
合併時
- 人口 8,499
  - 世帯数 3,057

## ごみの量

11月30日現在

- 可燃ごみ 141.07t (+8.16t)
- カンベツボトル 1.95t (-1.48t)
- びん 3.44t (-2.50t)
- 古紙他 9.45t (-6.09t)
- 可燃粗大 4.38t (+0.21t)
- 不燃 7.11t (+0.43t)
- プラスチック製容器包装 1.85t (+0.20t)
- 紙バック、白色トレイ 0.05t (+0.02t)

※( )内は前月増減

環境対応型植物油インキを使用しております。

こうげ  
KOGÉ absolute peach  
素敵人

# 自分自身が人生で何を成し遂げたいかを 考え抜くこと

赤いペンパルの古本と田んぼ学習

キャピタル・パートナーズ証券株式会社  
代表取締役社長

## 筒井 豊春さん

1951年生まれ(旧新吉富村宇野出身)  
東部中学校(現上毛中学校)、中津南高校、九州大学、ペンシルベニア大学ウォートン・スクールMBA、ハーバードビジネス・スクールAMP。野村證券を経て、モルガン・スタンレー証券東京支店株式本部長、クレディ・スイス・ファースト・ポストン証券東京支店長、日本証券業協会理事を歴任。  
1996年、キャピタル・パートナーズ株式会社を設立。  
2003年、米国ブルデンシャル・フィナンシャルより在日証券子会社の全株式を取得、キャピタル・パートナーズ証券株式会社に社名変更、代表取締役兼CEOに就任。  
2006年、(財)日本ベトナム文化交流協会理事長に就任。



日越友好コンサートのレセプションにて左から総指揮の本名先生、作曲家の和田先生、松坂慶子主演の映画「ベトナムの風に吹かれて」の原作者、小松みゆきさんと、と私です。

私は昭和26年7月29日宇野西区で生まれました。生まれる直前に父春美は急逝しています。それで祖母が「豊かな春が来るように」と豊春と命名したそうです。

子どもの頃は季節毎の遊びと生活が直結していました。我が家では遊びの獲物が晩御飯のおかずになることは珍しくありませんでした。春は蕨や筍、夏は川魚や鰻、秋は茸、冬は蓮根です。そして我が家の生活基盤はやはり二反七畝の猫の額ほどの田んぼでした。小学校の頃は机もなかったので家で勉強した記憶はありません。

小学4年生の頃、野球道具を買う欲しさに新聞配達を始めました。いつも一軒だけ分厚い新聞があり不思議に思い中を開けると数字がぎっしり並んでいます。数字が毎日変化し、最後に△▲が並んでいて強い好奇心が芽生えました。それは二十歳から購読することになる日経新聞の株価欄だったのです。幼心に資本主義を垣間見た瞬間でした。将来、経済を学び日米欧の投資銀行に勤めることになるとは夢にも思いませんでした。正に「三つ子の魂百まで」です。

小学5年生の頃、姉から赤いペンパルの古本を一冊貰い、ドイツの女子と無謀にも英語で文通を始めました。当然英語など知りませんから切り貼りして作文して色鉛筆で絵を描いて送りました。それでもしっかりと意思疎通ができたのです。約一年でしたが英語の実用性を理解したことは大きな意義がありました。「英語は使ってなんぼ」という意識が芽生えたのです。多くの人は大学入試が終わると英語の勉強を止めてしまいがちですが、私は今まで毎日英語の勉強を続けています。

東部中学に入ると試験の度に成績順に名前を貼り出します。最初の間テストでは24位で悔しい思いをしたので、すぐに母にねだって勉強機を買って貰い勉強を始めた途端、期末テストで4位になりました。サッカー部に入り3年次はキャプテンを務めたり生徒会副会長をやったりと多忙でした。唯一の贅沢は月1回、部活のない日曜日に中津に出かけることでした。大師館で洋画を見ること、映画雑誌「スクリーン」を買うこと、最後が宝来軒の大盛ラーメンでした。洋画鑑賞のおかげで聞く耳は高校でもトップレベルだったと思います。

中津南高校時代の想い出として、予餞会の演劇「金色夜叉」の脚本兼監督を担当したことがあります。配役も私の特権でした。元陸上幕僚長の火箱芳文君をお宮に抜擢したのが大当たりで大爆笑でした。彼とは小学校から50年以上の大親友です。田んぼは高校3年の大学受験直前まで私と母でやっていました。農繁期になると小倉のレストランで掃除婦をしていた母は夕方三毛門駅から直接田んぼに来て一緒に農作業をやり、母がいないときは大声を出して英単語や数学の公式を暗誦しながらやっていました。声を出すことで英語の発音が上手くなり今でも大い



真ん中の学生服が私、右がお宮役の火箱君

に役に立っています。中津の同級生は英語や数学の塾に通っていましたが宇野には塾もなく金もありませんでした。しかし宇野には田んぼがありました。大学合格のお礼に高校に行くこと担任から私は九大経済学部でトップクラスの合格点と言われました。今思うに、決して地頭の良さではなく「要領」または「段取り」が良かったのだと思います。社会に出てトップレベルの仕事ができるかどうかもう一歩の米国大学院に合格できるかもこの「要領」です。一般に「要領が良い人」とはややネガティブなニュアンスを含んで使われます。しかし、社会に出ると効率的に行動しないと生き残れません。時間をかければ誰でもできます。ポイントは限られた時間で他人より如何に正確に早く仕事をこなすかです。その意味で田んぼの作業は自然との闘いです。要領よくやらないと勉強する時間も寝る時間もなくなります。田んぼは画期的な「要領」鍛錬の場だったのです。

大学時代は母の送りは全く期待していませんでしたので4年間はバイト三昧でした。大学4年の9月から12月までリクルート福岡事務所でのバイトで初めてRPGを知り、10月以降は正社員を抜いて営業成績トップを続けました。また、アメリカ人や板付基地の若いヤンキーたち相手に英会話を磨きました。黒人やなまりの酷い南部出身者の方やスラックには閉口しましたが、この経験は数年後の米国留学では役立つことになります。私は若い人は無論ですが全ての日本人が生きた英語の勉強をもう一度するべきだと思います。情報格差は完全に消滅した現代において言葉の壁さえなくなればどこにいても世界と繋がりが仕事ができる時代です。まもなく6億の人口のアセアンが統合され新巨大市場が生まれます。アジアは今後世界で最も成長する地域です。とりわけ福岡県は最も恵まれた地理的環境にあります。残りは言葉の壁だけなのです。まずは英語です。そして中国語です。それだけで全てが変わるはずですよ。

仕事は42年間証券業務一筋です。この分野では世界中の誰とも臆することなく堂々と意見交換ができます。仕事に貴賤の差などありません。就職の目的は一流企業に入ることではありません。就職の目的は自己実現です。私の長男は大学を中退し漫画家になると言い出し、しばらく上毛町の実家に住み、働きながらデッサンの勉強をしました。筒井大志という名でどうにか飯を食えるようになったのは最近のことです。大切なことは自分自身が人生で何を成し遂げたいかを考え抜くことだと思います。それが決まれば遠くの北極星(目的)に向かってぶれずにまっしぐらに進めば良いのです。子どもたちの持つ能力は無限です。大人は単にそのきっかけを作ってあげることでないでしょうか。



日本ベトナム文化交流協会の財団活動でグエン・ミン・チエット大統領と

表紙の写真  
大池公園イルミネーション